# 明石の史跡　（５３）藤江村の太山寺詣

『林崎村郷土誌』（大正８年刊）に表題に関して、次のように記されている。（上略）

本邑古来より今に至るまで習慣上本邑に一の大病人ありし時は邑人相集まりて太山寺に参詣し病癒を祈る病平癒せば又邑人相集まりて太山寺に参詣す付近各邑に未だ會てあらざる習慣なり（下略）

重病人が発生したならば、複数の村人が太山寺（天台宗の古刹、本尊は薬師如来）にお参りをする。快癒すれば、また参詣して謝意を表するという。このような習慣が、いつごろから発祥したものだろうか。

寛永１６年（１６３９）１０月２６日 太山寺行事は氏子らの尽力により前年に再興なった和坂村上之宮の「進退」（しんだい＝中世、土地に対する支配・占有・処分などの権利を有すること＝岩波古語辞典）を主張した多聞寺（真言宗＝神戸市垂水区）の非法を大久保加賀守忠職（ただもと＝明石藩第４代藩主）の奉行所に訴えている（播磨国明石郡林神社文書２項）。

結末は、寛永２１年（１６４４）７月１０日 に多聞寺側より詫び状を提出して落着となる（同書３項）。

したがって和坂村上之宮は、太山寺の管理下に所属することになった。問題の和坂村上之宮というのは、和坂・林・東松江・西松江の４か村の産土神一式内林神社のことである（明石記）。

『金波斜陽市井上』によれば藤江村は和坂村（上之宮）とともに林崎庄に所在する。藤江地域の３神社（御崎・青竜・三社）は、現在も林神社（上之宮）の神主が兼帯している。太山寺とのかかわりは、寛永の末年に求めることはできよう。それでも藤江村のみに限定された「太山寺詣」の習慣は、もっかのところ霧中としかいえない。しかし見過ごしそうな伝承にも歴史的事実の一端は存在するものである。

長寿院

日本歴史学会会員 茨木 一成